

2025 年 10 月 12 日 (日)

日本キリスト教団 **久宝教会**

第 68 巻第 26 号 (通算 3463 号)

教会設立 1959 年 6 月 14 日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺 6 丁目 7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう 週報

教会標語

ちい ひと
小さくされている人を
たいせつ きょうかい
大切にする教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>

【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切にする神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマ5:5)

しんがっこう び れいはい 神学校日礼拝

せいれいこうりんせつ だい しゅじつれいはい
(聖霊降臨節 第19主日礼拝)

れいはい ちゅうけいはいしん
《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂けます》

ぜんそう もくとう ちよさくけんしょうめつ
前奏(黙祷) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば しへん へん せつ
招きの詞 詩編 90編 17節

さんびか ばん はたら ひとびと
賛美歌 21-565番「働く人々」(©JASRAC)

せいしよ ふくいんしよ しょう せつ
聖書 マタイによる福音書 20章 1-16節

いの
お祈り

さんびか ばん しょうみんぞく しょうこく せかい しゅ
賛美歌 21-562番「諸民族、諸国、世界の主よ」(©JASRAC)

ほんとう ただ うしだ ただし ぼくし
メッセージ「本当の正しさ」 牛田 匡 牧師

さんびか きょうどうたいさんびかしゅう かがや ひ く しゅつばんきよく
賛美歌『アイオナ共同体賛美歌集』「みんな輝く日が来る」(©出版局)

しゅ いの ばん てん ちち さんびかかいていいんかい
主の祈り 21-62番「天にいます わたしたちの父」(©讃美歌改訂委員会)

ささげもの
献げ物(*)

は け ん ばん かみ めぐ う せつ
派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ)(©JASRAC)

しゅく ふく うしだ ただし ぼくし
祝福 牛田 匡 牧師

こう そう ばん きょうだんさんびかいいんかい
後奏 アーメン コーラス (21-40-6番)(©教団讃美歌委員会)

ほう こく ページ さんしょう
報告 (4頁をご参照ください)

せき すわ れいはい さんか
《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

うけつけ けんきんばこ
*受付に献金箱がございます。

ささげもの けんきん ようい かた ささ
「献げ物(献金)」はご用意のある方のみ、お献げください。

我らの神、わが主の^{うるわ}麗しさが

私たちの上にありますように。

私たちの手の働きを

私たちの上に確かなものにしてください。

私たちの手の働きを^b力あるものにしてください。

（脚注 a：別訳「好意」、b：直訳「確かなものにしてください」）

聖書

マタイによる福音書

20 章 1－16 節（聖書協会共同訳）

¹「天の国は、ある家の主人に似ている。主人は、ぶどう園で働く労働者を雇うために、夜明けとともに出かけて行った。²彼は、一日につき一デナリオンの約束で、労働者をぶどう園に送った。³また、九時ごろ行ってみると、何もしないで広場で立っている人々がいたので、⁴『あなたがたもぶどう園に行きなさい。それなりの賃金を払うから』と言った。⁵それで、彼らは出かけて行った。主人はまた、十二時ごろと三時ごろに出て行って、同じようにした。⁶五時ごろにも行ってみると、ほかの人々が立っていたので、『なぜ、何もしないで一日中ここに立っているのか』と言った。⁷彼らが、『誰も雇ってくれないのです』と答えたので、主人は、『あなたがたもぶどう園に行きなさい』と言った。⁸夕方になって、ぶどう園の主人は管理人に言った。『労働者たちを呼んで、最後に来た者から始めて、最初に来た者まで順に賃金を払ってやりなさい。』⁹そこで、五時ごろに雇われた人たちが来て、一デナリオンずつ受け取った。¹⁰最初に雇われた人たちが来て、もっと多くもらえるだろうと思っていたが、やはり一デナリオンずつであった。¹¹それで、受け取ると、主人に不平を言った。¹²『最後に来たこの連中は、一時間しか働かなかったのに、丸一日、暑い中を辛抱して働いた私たちと同じ扱いをなさるとは。』¹³主人はその一人に答えた。『友よ、あなたに不当なことはしていない。あなたは私と一デナリオンの約束をしたではないか。¹⁴自分の分を受け取って帰りなさい。私はこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。¹⁵自分の物を自分のしたいようにしては、いけないのか。それとも、私の気前のよさを妬むのか。』¹⁶このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。』

「人の願いと神の願い」

牛田匡牧師

聖書 マタイによる福音書 19 章 16－30 節

今回のお話は、一人の金持ちの青年がイエス様の所にやって来て質問をした、というお話でした。青年は永遠の命を得るには、何をすればよいかと尋ね、それに対してイエス様は、律法を守るようにと返答されました。しかし、彼は即答しました。「それらはみな守ってきました。他にまだ何か欠けているでしょうか」。そしてイエス様は「行って持ち物を売り、貧しい人々に与えなさい」と伝えましたが、青年はその答えに悩みつつ立ち去っていきました。このお話を読むと、「神と富とに仕えることはできない」(マタイ 6:24) というイエス様の言葉と合わせて、「モノやカネに執着していたら、天の国に入れない。それらを手放すことが大事」と読んでしまいそうになります。

しかし、この青年に欠けていたのは、財産を手放すことではなく、むしろ「誰を隣人として見ているか」という視点だったのではないかと思います。貧富の格差が激しく、貧しい者はさらに貧しく、富める者はさらに富んでいくような当時の古代イスラエル社会の中で、この金持ちの青年にとっては、イエス様の周りにいた「貧しい人々」というのは、仕事を与え賃金を与える相手、搾取の対象としてしか映っておらず、自分の「隣人」としては全く映っていなかったのではないのでしょうか。隣人とは誰かが見えなくなっていること、搾取して富を得ていること、得たものを握りしめて分かち合おうとしていないこと、それらこそがこの青年に欠けていたことであり、「隣人を自分自身のように大切に」できていないことだったわけです。

人の願いは、日々の糧を得ること、健康が守られること、自分の生活が豊かになることや永遠の命が得られることであったりします。だからこそ、他者から攻撃されることを恐れて、先に排斥したり攻撃したりしようとしします。一方、神の願いは、イエス様がその言葉と振る舞いで示されたように、全ての人々が共に大切にし合う世界が実現することです。ますます視野が狭くなり、自分の周りしか見えなくなり、心にもゆとりがなくなりつつある現代において、誰かの足を踏みつけながら、「私にまだ何か欠けているでしょうか」と問うようなことがないように、隣人の存在に気付けるようでありたいと願います。そのように、心と目が開かれながら、私たちは今日もここから導かれていきます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 2025 年 10 月 5 日 世界聖餐日礼拝

礼拝出席 大人 6 人 献金 6,000 円 中継視聴者数 32 回 感謝

◎次週 2025 年 10 月 19 日（日）収穫感謝礼拝

招きの詞 詩編 36 編 6-7 節

聖書 マタイによる福音書 25 章 1-13 節

メッセージ「備えよ常に」牛田匡牧師

賛美歌 21-387 番 (©P.D.)、21-573 番 (©P.D.)、21-432 番 (©P.D.)

「収穫感謝礼拝」として、お米やお野菜、果物などの大地の恵みをお献げくださる方は、どうぞお持ちください。献げられました収穫物は、釜ヶ崎支援のために、いこい食堂に献品致します。なお、礼拝後には併せて、釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」も行い、いこい食堂にお届けする予定です。どなたでもご参加ください。

「おにぎり支援」のために、お米の献品を

◎お知らせ

- ・これまでの「週報」や「メッセージ（全文）」はホームページに掲載しています。

また中継録画のメッセージ部分を YouTube でご覧いただくことも可能です。

- ・10月26日（日）17時～19時にかけて、八尾教会にて、「教会と天皇制」を考える特別委員会主催の連続座談会（第2回）「天皇制について考えてみたこと」が開催されます。発題者は岡山牧呼さん（大阪聖和教会員・大阪教区常置委員）です。

昨年度「講演会」を開催したことに続き、今年度は連続座談会です。ZOOMでも参加が可能です。

オンライン参加希望の方は、下記までメールで

お申込みください。 uccj.osaka.2.11@gmail.com

- ・11月1日（土）15時～17時にかけて、釜ヶ崎にある「旅路の里」（南海・萩之茶屋駅、JR／南海・新今宮駅、大阪メトロ・動物園前駅下車、徒歩）にて、「宋富子（ソン・プジャ）さんの証しを聴く会」が開催されます。今年3月のNHK「こころの時代」でも取り上げられた宋富子さんが、大阪に来られてお話をします。事前申込みは不要です。参加費は無料ですが、会場費・講師応援のためのカンパへのご協力をお願いしています。

◎次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
10/19	牛田匡牧師	収穫感謝礼拝・おにぎり支援
10/26	牛田匡牧師	誕生者祝福式
11/2	牛田匡牧師	召天者記念礼拝 13時半～ 王寺墓地・墓前礼拝 14時半～ 第二好意の庭 召天者記念礼拝
11/9	牛田匡牧師	

「教会と天皇制」を考える特別委員会主催 連続座談会第2回

参加無料

「天皇制について考えてみたこと」

発題者：岡山牧呼
(大阪聖和教会員・大阪教区常置委員)

昨年度、「教会と天皇制」を考える特別委員会は連続講演会を開催しました。今年度からは、連続座談会を開催しています。座談会の形で、発題者のお話を聞きながら、参加者みなで言葉や思いを交わし合う場になるように願っています。ふだん天皇制について考えていること、それを教会の宣教や課題、あるいは、教会自身が抱える構造的な問題と結びつけながら、天皇制によって構成された世界とは異なる世界の可能性を探っていきましょう。

第2回の座談会では、岡山牧呼さんが発題をしていただきます。この語り合いの場に、ぜひご参加ください。

2025 10.26 Sun

時間 17:00～19:00
会場 日本キリスト教団八尾教会
〒581-0074 大阪府八尾市栄町1-5-8

Zoomでも座談会の模様を配信いたします。オンラインにて参加を希望される方は、当委員会までメールにてお申し込みください。
アドレス: uccj.osaka.2.11@gmail.com

ソン プジャ あか

宋 富子さんの証しを聴く会

心をつなぐ。思いをつづり。思いをつづり、主なるお方の愛を愛せよ。自分自身を愛する。あなたにあなたの隣り人を愛せよ。これらのことが、いよいよに法律全体と一致する。

参加費として皆様からのご協力（カンパ）をお願いしております。

日時 2025 年 11 月 1 日（土）
時間 15:00～17:00
場所 旅路の里
(イエズス会社会司教センター)

私は31歳まで在日朝鮮人に生まれた事を恥じて劣等感の闇まにでしたが、1人の人との出会いでキリスト教に導かれ、日本と朝鮮半島の真実の歴史を知り目覚めました。在りのままの自分が一番ステキなんだと信じた。

現在84歳ですが、信仰をもってからの53年間の希望の人生を証し、お話しします。

Special Guest

皆様との新しい出会いを創って下さいましたイエズス様に、心から感謝いたします

ソン プジャ
宋 富子
(川崎在住)

問い合わせ
西成教会 松村
080-6151-3042
(つながらない時は留守電に入れて下さい)

旅路の里
〒581-0004
大阪府西成区
萩之茶屋2-8-9
GoogleマップのQRコード